

平成30年度業務実績報告(自己評価)の評定及び委員意見一覧

平成30年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
第1 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	0	2	72	1	75	97.3%	1.3%	

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 入学者受入方針・入学者選抜に関する目標を達成するための措置

1	イ 学士課程 No.1～6		1	4		5	80.0%	0.0%	C
---	---------------	--	---	---	--	---	-------	------	---

2	ロ 大学院課程 No.7～11		1	3		4	75.0%	0.0%	C
---	-----------------	--	---	---	--	---	-------	------	---

法人の自己評価に対する委員評価・意見

《参考》 評定実績	H27	H28	H29	H29 (仮)
--------------	-----	-----	-----	------------

A	A	B	C
---	---	---	---

A	A	C	C
---	---	---	---

【評価】 B	【委員意見】 ○伊勢委員 C 留学生の比率については次回中期計画で現実的な数字に見直しとなるか。 ○伊藤委員 B 県立大学としては、全国から入学者を集めている結果を評価したい。少子化の波の中、努力の姿が見られる。外国人の長期目標は数値を改めるべき。 ○齋藤委員 B 外国人留学生比率に関する中期計画は現実離れしており、この目標の未達成はそれほど重視すべきでない。 ○中島委員 C ○橋本委員 B 各種データをもとに、丁寧な広報や入試制度の検討が行われた。ネット出願も開始され、効果的・効率的な入学者選抜ができたことを評価する。 ○吉沢委員 B H27.28の実績数からみて、ほとんど変わっていない。AOが加わり多彩な入試制度が始まり、いい成果が出ていると思う。AまたはBでもよいのではないかと思う。
B 4 C 2	
【評価】 C	【委員意見】 ○伊勢委員 C 定員数はどのように決定されているのか。 ○伊藤委員 B 社会人特別枠をさらに増やし、特に市町村へのアピールをさらに進めるべき。 ○齋藤委員 C ○中島委員 B 大学院の定員割れに関しては、ほとんどの公立大学が苦勞しているのでCとは言い難い。 ○橋本委員 C 将来構想の継続的検討に期待する。 ○吉沢委員 C 留学生に関しては、全体の30%という目標値の見直しを考えたほうがいい。現状に合った目標値を設定する。
B 2 C 4	

平成30年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	----	-----	----	---	--------	------	-----

法人の自己評価に対する委員評価・意見

《参考》 評定実績			H29 (仮)
H27	H28	H29	

(2) 教育の内容等に関する目標を達成するための措置

3

イ 学士課程 No.12～24	0	0	13		13	100.0%	0.0%	A
(イ) 教育課程編成の基本方針 No.12～15			4		4			
(ロ) 共通教育(基盤教育) No.16～19			4		4			
(ハ) 専門教育 No.20～22			3		3			
(ニ) 教育方法と成績評価 No.23～24			2		2			

【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A 4つのコモンズの成果を期待したい。 ○齋藤委員 A 年度計画の達成度という点ではAであるが、学修成果の測定方法の明確化とそれに基づく学修成果の可視化への取組みがあまり見えてこないのは、大学基準協会の認証評価への対応からするとやや不安である。 ○中島委員 A ○橋本委員 S 組織的な自己点検評価が実施され、PDCAサイクルが有効に機能していること、昨年来の「地域フィールドワーク」の拡充や「コミュニティ・プランナープログラム」の開講等により、地域の課題解決に貢献できる人材の育成が進んだこと、また各コモンズの整備を進め、学生の学修意欲を高め主体的な学習を促すため様々な角度からの学習機会を試行したことを評価する。 ○吉沢委員 A

A	A	A	A
---	---	---	---

4

ロ 大学院課程 No.25～34			10		10	100.0%	0.0%	A
(イ) 教育課程編成の基本方針 No.25～28			4		4			
(ロ) 各研究科 No.29～31			3		3			
(ハ) 教育方法と成績評価 No.32～34			3		3			

【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A ○吉沢委員 A

A	A	A	A
---	---	---	---

平成30年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	----	-----	----	---	--------	------	-----

(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

5	イ 適正な教員配置 No.35～38			4		4	100.0%	0.0%	A
---	--------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

6	ロ 教育及び教員の質の向上 No.39～42			4		4	100.0%	0.0%	A
	(イ) 教員評価 No.39			1		1			
	(ロ) 授業評価 No.40			1		1			
	(ハ) 教員研修 No.41～42			2		2			

7	ハ 教育環境の整備 No.43～45			2	1	3	100.0%	33.3%	A
---	--------------------	--	--	---	---	---	--------	-------	---

法人の自己評価に対する委員評価・意見

《参考》 評定実績			H29 (仮)
H27	H28	H29	

A	A	A	A
---	---	---	---

A	A	A	A
---	---	---	---

A	A	A	A
---	---	---	---

【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A 教員の採用及び昇任に関する審査方法の改善は評価できる。 ○中島委員 A ○橋本委員 A ○吉沢委員 A
A 6	
【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A 教員評価制度の円滑な導入・実施に期待したい。 ○中島委員 A ○橋本委員 A 新授業評価・学修状況チェックシステムによる授業改善などの点検評価システムがより改善されたこと、マクロ・ミドル・マイクロレベルでのFD・SD研修が着実に実施され効果を上げていることを評価する。 ○吉沢委員 A
A 6	
【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A 4つの「コモンズ」計画の着実な実施に期待したい。 ○中島委員 A ○橋本委員 S 各コモンズの整備が着実に実施され、自発的に自己学習に取り組める教育環境の整備が進んだことを評価する。 ○吉沢委員 A
S 1 A 5	

平成30年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	----	-----	----	---	--------	------	-----

(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

8	イ 学修支援 No.46～49			4		4	100.0%	0.0%	A
---	-----------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

9	ロ 生活支援 No.50～52			3		3	100.0%	0.0%	A
---	-----------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

10	ハ 就職支援 No.53～57			5		5	100.0%	0.0%	A
----	-----------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

法人の自己評価に対する委員評価・意見

《参考》 評定実績			H29 (仮)
H27	H28	H29	

A	A	A	A
---	---	---	---

B	A	A	A
---	---	---	---

A	A	A	A
---	---	---	---

【評価】 A	【委員意見】 ○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A 「学修ポートフォリオ」の改善による学修成果の「見える化」に期待したい。 ○中島委員 A ○橋本委員 A 学生個人々々へのきめ細かな対応に工夫を凝らし、休学率・退学率を低く抑えられたことを評価する。 ○吉沢委員 A
【評価】 A	【委員意見】 ○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A ○吉沢委員 A
【評価】 A	【委員意見】 ○伊勢委員 A ○伊藤委員 S ○齋藤委員 A ほとんどの学生が就職内定している。 資格試験合格率、就職率の高さは評価できる。今後、「学務統合システム」を活用したキャリア支援の導入に期待したい。 ○中島委員 A ○橋本委員 A 実のあるインターンシップへの取組み、キャリア科目の工夫による「就活の要らない大学」への取組みを評価する。 ○吉沢委員 A

平成30年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
11	二 社会人・留学生への支援 No.58～59			2		2	100.0%	0.0%	A

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A 仙台駅近くのサテライトキャンパスの活用を充実させるべきである。 ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A ○吉沢委員 A
【特記事項に関する委員意見】 ○伊藤委員 特徴的な4つのコモンズをフルに活用し、学生同士が刺激し合える環境が出来た事による成果を期待したい。 ○齋藤委員 特記事項は、年度計画の実施状況に関する記載としてすべて適切である。 ○橋本委員 ・昨年来の「地域フィールドワーク」の拡充や「コミュニティ・プランナープログラム」の開講等により、地域の課題解決に貢献できる人材の育成が進んだこと、また各コモンズの整備を進め、学生の学修意欲を高め主体的な学習を促す様々な角度からの学習機会を試行したことを評価する。 ・組織的な自己点検評価が実施され、PDCAサイクルが有効に機能していること、マクロ・ミドル・ミクロレベルでのFD・SD研修が着実に実施され効果を上げていることを評価する。 ・学生個人々人へのきめ細かな対応に工夫を凝らし、休学率・退学率が低く抑えられたことを評価する。また、実のあるインターンシップやキャリア科目の工夫による「就活の要らない大学」への取組みを評価する。 ○吉沢委員 学部の教育改革の成果が徐々にみられている。	

《参考》 評定実績			H29 (仮)
H27	H28	H29	
S	S	A	A

平成30年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
------	---	----	-----	----	---	--------	------	-----

法人の自己評価に対する委員評価・意見

《参考》 評定実績			H29
H27	H28	H29	(仮)

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置

12

イ 研究の方向性 No.60～63			4		4	100.0%	0.0%	A
-------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A 地域連携センターのマッチングの強化を図り、地域課題の解決に寄与する研究を推進したことを評価する。 ○吉沢委員 A 公立大学の強みを生かした、研究の方向性が打ち出されている

A	A	A	A
---	---	---	---

13

ロ 研究水準の向上 No.64～65			2		2	100.0%	0.0%	A
--------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A ○吉沢委員 A

A	A	A	A
---	---	---	---

平成30年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

	評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
14	ハ 研究成果の地域社会への還元 No.66～68			3		3	100.0%	0.0%	A

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A 地域連携センターのスタッフ強化による企画・調整機能の充実と実績は評価できる。 ○中島委員 A ○橋本委員 A 地域連携センターの機能強化により、地域企業・自治体との交流・連携が進み、様々な形で研究成果を地域に還元できたことを評価する。 ○吉沢委員 A

《参考》 評定実績			H29 (仮)
H27	H28	H29	
S	A	A	A

(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置

15	イ 研究の実施体制 No.69～71			3		3	100.0%	0.0%	A
----	--------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A ○吉沢委員 A

A	A	A	A
---	---	---	---

16	ロ 研究費の配分 No.72～76			5		5	100.0%	0.0%	A
----	-------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A 「震災復興特別研究」による研究費配分は評価できる。総額をもう少し増やしてもよいのではないかと。 ○中島委員 A ○橋本委員 A ○吉沢委員 A 外部資金の獲得にも努力がみられる。

A	A	A	A
---	---	---	---

平成30年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
17	ハ 研究者の配置 No.77			1		1	100.0%	0.0%	A

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A ○吉沢委員 A 外部資金獲得のための指導の成果はいかほどであったのか示すとよい。
【特記事項に関する委員意見】 ○伊藤委員 富谷市からの院生に見るように地域課題を自治体とともに見出し、解決に向け実績を重ねてほしい。宮城県(県民)に対する実学としての大学の評価が上がる。 ○齋藤委員 特記事項は、年度計画の実施状況に関する記載としてすべて適切である。 ○橋本委員 ・「震災復興特別研究」を始め地域社会のニーズに対応した研究や学群横断的な研究、また特に注力すべき研究等を、研究費の配分により推進したことを評価する。 ・地域連携センターの機能強化により、地域企業・自治体との交流・連携が進み、地域課題の解決に寄与する研究が推進され、様々な形で研究成果を地域に還元できたことを評価する。 ○吉沢委員 辛口のコメントにはなるが、大学独自の復興に伴う特別研究予算があるので、そこで完結していないだろうか。真の競争的外部資金をどれだけ獲得できているかの評価も必要がある。	

《参考》 評定実績			H29 (仮)
H27	H28	H29	
A	A	A	A

平成30年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
第2 地域貢献等に関する目標を達成するためとるべき措置	0	0	22	1	23	100.0%	4.3%	

1 地域貢献に関する目標を達成するための措置

18	(1) 地域社会への貢献 No.78～83			6		6	100.0%	0.0%	A
----	-----------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

19	(2) 産学官の連携 No.84～86			3		3	100.0%	0.0%	A
----	---------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

法人の自己評価に対する委員評価・意見

《参考》 評定実績	H27	H28	H29
			(仮)

A	A	A	A
---	---	---	---

A	A	A	A
---	---	---	---

【評価】 A	【委員意見】 ○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A 「地域フィールドワーク」を全学1年生必修としていることは、地域に貢献できる人材養成に資するものとして評価できる。 ○中島委員 A ○橋本委員 A アカデミック・インターンシップや高大連携プログラムの深化を図り、全学の「地域フィールドワーク」や各学群のプログラムにより地域に貢献できる人材の育成が進んだことを評価する。 ○吉沢委員 A
【評価】 A	【委員意見】 ○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A 地域連携センターの機能強化が図られ、産学官の連携が進んだことを評価する。 ○吉沢委員 A

平成30年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
20	(3) 大学間及び高等学校との連携 No.87～89			2	1	3	100.0%	33.3%	A

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A A 6 コミュニティ・プランナープログラムは、地域に貢献できる人材養成プログラムとして評価できる。 ○中島委員 A ○橋本委員 A 全学的な教職員の協力体制のもと、地域と連携したきめ細かな実践的CPプログラムを実施し、成果を挙げたことを評価する。 ○吉沢委員 A
【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A A 6 ○中島委員 A ○橋本委員 A ○吉沢委員 A

《参考》 評定実績			H29 (仮)
H27	H28	H29	
A	A	S	A

21	2 国際交流等に関する目標を達成するための措置 No.90～96			7	0	7	100.0%	0.0%	A
	(1) グローバル化を推進するための教育環境整備 No.90～91			2		2			
	(2) 海外大学等との連携 No.92～93			2		2			
	(3) 留学・留学生支援 No.94～96			3		3			

S	A	A	A
---	---	---	---

平成30年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
22	3 東日本大震災からの復旧・復興支援に関する目標を達成するための措置 No.97～100			4		4	100.0%	0.0%	A

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A ○吉沢委員 A
A 6	
【特記事項に関する委員意見】 ○伊勢委員 大学連携やコミュニティプランナー育成プログラムの取組みに注力されているが、ここからの大学院課程への道程はあるのだろうか。 ○伊藤委員 地域連携センターのさらなる充実を図ると同時に、大学の持つシーズを広く情報発信してほしい。 ○齋藤委員 特記事項は、年度計画の実施状況に関する記載としてすべて適切である。 ○橋本委員 ・全学的な教職員の協力体制のもと、地域と連携したきめ細かな実践的CPプログラムを実施したこと、アカデミック・インターンシップや高大連携プログラムの深化を図ったことを通して、地域に貢献できる人材の育成が進んだことを評価する。 ・地域連携センターの機能強化が図られ、産学官の連携が進んだことを評価する。 ○吉沢委員 地域貢献については、公立大学としての使命において、積極的に取り組まれている。	

《参考》 評定実績			H29 (仮)
H27	H28	H29	
A	A	A	A

平成30年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	0	0	14	0	14	100.0%	0.0%	

1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置

23	(1) 理事長を中心とする運営体制の構築 No.101～105			5		5	100.0%	0.0%	A
----	---------------------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

24	(2) 戦略的な予算等の配分 No.106			1		1	100.0%	0.0%	A
----	-----------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

25	(3) 学外の有識者等の登用 No.107～108			2		2	100.0%	0.0%	A
----	---------------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

26	2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置 No.109			1		1	100.0%	0.0%	A
----	-------------------------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

法人の自己評価に対する委員評価・意見

《参考》 評定実績	H27	H28	H29	H29 (仮)
--------------	-----	-----	-----	------------

【評価】 A A 6	【委員意見】 ○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A ○吉沢委員 A 理事長のリーダーシップがうかがえる。
【評価】 A A 6	【委員意見】 ○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A ○吉沢委員 A
【評価】 A A 6	【委員意見】 ○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A ○吉沢委員 A
【評価】 A A 6	【委員意見】 ○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A 「教育推進センター等」の5組織,「全学センター」としての4組織への再構築は評価できる。 ○中島委員 A ○橋本委員 A ○吉沢委員 A

A	A	A	A
---	---	---	---

A	A	A	A
---	---	---	---

A	A	A	A
---	---	---	---

A	A	A	A
---	---	---	---

平成30年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

	評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
27	3 人事の適正化に関する目標を達成するための措置 No.110～112			3		3	100.0%	0.0%	A

28	4 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置 No.113～114			2		2	100.0%	0.0%	A
----	--	--	--	---	--	---	--------	------	---

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A ○吉沢委員 A
A 6	
【特記事項に関する委員意見】	○齋藤委員 特記事項は、年度計画の実施状況に関する記載としてすべて適切である。 ○吉沢委員 県からの予算では、限界がある。同窓生は、まだ若いため、多額の寄付金は見込まれないため、地元企業、住民からの寄付集めが必要になってくるのではないと思う。

《参考》 評定実績			H29 (仮)
H27	H28	H29	
A	A	A	A

A	A	A	A
---	---	---	---

平成30年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	0	2	9	0	11	81.8%	0.0%	

法人の自己評価に対する委員評価・意見

《参考》 評定実績	H27	H28	H29
			(仮)

29	1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置 No.115～119		1	4		5	80.0%	0.0%	C
	(1) 外部資金の獲得 No.115～116		1	1		2			
	(2) 自己収入の確保 No.117～119			3		3			

【評価】	【委員意見】
C	○伊勢委員 C 獲得金額ベースでは達成できない状況が続いているが、応募ベースではどうだったのか？応募数や応募金額に占める採択率など気になる。
B 2	○伊藤委員 B 外部資金は教員への周知はもちろんですが、大学として戦略的に獲得すべき。
C 4	自己収入の確保には限界があると思うが、推薦枠を増やすなどして定員まで確保することが望ましい。
	○齋藤委員 C 中期計画の外部資金獲得目標は、国の研究予算総額の伸び率を考えると、実際にはかなり達成困難である。
	○中島委員 C ○橋本委員 C 自己収入の増加は容易ではないと思われる。次期中期計画に向けて目標の見直しが必要ではないか。
	○吉沢委員 B 外部資金特に大型の外部資金の獲得をどのように行うかを考える必要がある。

C	C	C	C
---	---	---	---

30	2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置 No.120～123		1	3		4	75.0%	0.0%	C
----	------------------------------------	--	---	---	--	---	-------	------	---

【評価】	【委員意見】
C	○伊勢委員 B 計画通りに発注が済んでいるのであれば評価をひとつ上げて良いのではないかな。
B 2	○伊藤委員 B ○齋藤委員 C ○中島委員 C ○橋本委員 C 統合システムの使用開始が遅れているのは残念だが、受注先の事情もあり、致し方ないことと思われる。
C 4	○吉沢委員 C コピーと同様に、研究室等の各教員への電気代の支払い、ペーパーレス化などの徹底が必要では。

A	A	A	A
---	---	---	---

平成30年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
31	3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置 No.124～125			2		2	100.0%	0.0%	A

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A ○吉沢委員 A
A 6	
【特記事項に関する委員意見】	
○齋藤委員 特記事項は、年度計画の実施状況に関する記載としてすべて適切である。 ○吉沢委員 大型の研究費獲得を狙えるような方略を考える必要がある。または、小口を1教員2件以上などの努力目標を立てることも必要では？	

《参考》 評定実績			H29 (仮)
H27	H28	H29	
A	A	A	A

第5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置

32	1 自己点検・評価の充実に関する目標を達成するための措置 No.126～129 《No.127は平成30年度以降の作業となるため年度計画なし》		4	4	100.0%	0.0%	A
----	--	--	---	---	--------	------	---

【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A ○吉沢委員 A
A 6	留学生の長期目標や研究資金の確保など目標設定が高すぎるのでは。 「内部質保証」は体制整備だけでなく、その運用の実質化と成果が期待される。 自律的な自己点検・評価制度の運用により、全学におけるPDCAサイクルの一層の定着が図られたことを評価する。

A	A	A	A
---	---	---	---

平成30年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
33	2 情報公開の推進等に関する目標を達成するための措置 No.130～132				2	2	100.0%	100.0%	S

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【委員意見】
S	○伊勢委員 S 広報媒体のリニューアルはなかなかの大仕事と理解するが、計画を超える特筆すべき実績にあたるだろうか？ ○伊藤委員 S ○齋藤委員 S 「宮城大学広報基本方針」の策定とそれに基づく戦略的な広報は評価できる。 ○中島委員 S ○橋本委員 S 民間事業者の専門的なノウハウを導入し、「宮城大学広報基本方針」を策定し、適切な情報の収集・編集・発信に向けた体制を整備し、より効果的な広報を進めたことを評価する。 ○吉沢委員 S
S 6	【特記事項に関する委員意見】 ○伊勢委員 リニューアルの効果に期待。 ○齋藤委員 特記事項は、年度計画の実施状況に関する記載としてすべて適切である。 ○橋本委員 ・自律的な自己点検・評価制度の運用により、全学におけるPDCAサイクルの一層の定着が図られたことを評価する。 ・民間事業者の専門的なノウハウを導入し、「宮城大学広報基本方針」を策定し、適切な情報の収集・編集・発信に向けた体制を整備し、より効果的な広報を進めたことを評価する。 ○吉沢委員 紙媒体は経費がかかりすぎではと思う。もっとHP、ツイッター、学長ブログ、Youtubeなどをどんどん使ってみてはどうか？英語版HPも必要。冊子を作るとすると限定的であってもいいのではないか。

《参考》 評定実績			H29 (仮)
H27	H28	H29	
A	A	A	A

第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置		0	0	9	1	10	100.0%	10.0%	
34	1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置 No.133～136			3	1	4	100.0%	25.0%	A

【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A 新整備された施設が有効に活用されることを期待。 ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A 「大和キャンパス等再編整備基本計画」に基づいたキャンパス整備が進んでいることは評価できる。 ○中島委員 A ○橋本委員 A 各コモンズ、交流棟オープンスタジオの整備を進め、学修環境の改善や地域との交流促進が図られたことを評価する。 ○吉沢委員 A
A 6	

A	A	A	A
---	---	---	---

平成30年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

	評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価
35	2 安全管理等に関する目標を達成するための措置 No.137～140			4		4	100.0%	0.0%	A
36	3 人権の尊重に関する目標を達成するための措置 No.141～142			2		2	100.0%	0.0%	A
合 計		0	4	130	5	139	97.1%	3.6%	

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】	【委員意見】
A	○伊勢委員 A ○伊藤委員 A ○齋藤委員 A ○中島委員 A ○橋本委員 A ○吉沢委員 A
A 6	
【特記事項に関する委員意見】	○齋藤委員 特記事項は、年度計画の実施状況に関する記載としてすべて適切である。 ○橋本委員 各コモンズ、交流棟オープンスタジオの整備を進め、学修環境の改善や地域との交流促進が図られたことを評価する。

《参考》 評定実績			H29 (仮)
H27	H28	H29	
A	A	A	A

A	A	A	A
---	---	---	---

平成30年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	法人の自己評価に対する委員評価・意見	《参考》 評定実績				H29 (仮)
						仮評価		H27		H28	H29			
						仮評価	S=	1	【委員意見】(全体評価) ○伊勢委員 ・学生にとって良い環境が整備されていると感じる。ケアも厚い。 ・大学間連携も継続的に取り組まれており、施設整備も進められ、全体的に「交流」というキーワードを大切にされている印象を受けた。交流の結果として生み出される成果に期待する。 ○伊藤委員 ・建学の精神を原点に、理念を成文化されたのは大変良かった。 ・県内自治体との連携をさらに密にし、出来れば全市町村から最低1人推薦していただき、課題の抽出や改善策を継続的に取り組むめるように県からも指導されたい。同時に各市町村への就職希望者も見込む。 ・太白キャンパス、大和キャンパスとの交流を密にとる事を期待する。 ・宮城県民に広く親しまれ、高度な実学を地域で実践されることを今後も期待致します。 ○齋藤委員 ・第二期中期計画の平成30年度計画は、概ねよく達成されており、中期計画全体の目標達成も、概ね順調に進んでいると評価できる。 ・「地域に貢献できる」大学としての基本理念が、教育、研究及び地域貢献の各領域において着実に具体化されつつあることは大いに評価できる。 ・今後もその方向で改革を進め、その成果を可視化できるようにさらに工夫を重ねることを期待する。 ○橋本委員 ・組織的自律的な自己点検評価が実施され、教育課程の編成・大系、授業改善等にPDCAサイクルが有効に機能していることが認められる。またマクロ・ミドル・マイクロレベルでのFD・SD研修が着実に実施され、教育・教員の質の向上が図られていること、各コモنزの整備を進め、学生の学修意欲を高め主体的な学習を促す様々な角度からの学習機会を試行したことを評価する。 ・学生個人々人へのきめ細かな対応に工夫を凝らし、休学率・退学率が低く抑えられていること、また高止まりしている就職率のみならず、実のあるインターンシップやキャリア科目の工夫による「就活の要らない大学」への取組みが図られていることを評価する。	S=	3	1	1	0
		A=	31	34	32	33								
		B=	0	0	1	0								
		C=	4	1	2	3								
		D=	0	0	0	0								
		S～D合計	36	36	36	36								

平成30年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評 価 項 目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの 割合	Ⅳの 割合	仮 評価
---------	---	----	-----	----	---	------------	----------	---------

法人の自己評価に対する委員評価・意見
・全学的な教職員の協力体制のもと、地域と連携したきめ細かな実践的CPプログラムを実施したこと、アカデミック・インターンシップや高大連携プログラムの深化を図ったことを通して、地域に貢献できる人材の育成が進んだことが認められる。また地域連携センターの機能強化が図られ、地域企業・自治体との交流・連携が進み、地域課題の解決に寄与する研究が推進され、様々な形で研究成果を地域に還元できたことを評価する。 ・大学広報を社会との重要なコミュニケーション手段と位置付け、民間事業者の専門的なノウハウを導入し、「宮城大学広報基本方針」を策定し、適切な情報の収集・編集・発信に向けた体制を整備し、より効果的な広報を進めたことを評価する。
○吉沢委員 ・学部教育に関しての取組みは素晴らしく、成果は出ている。 ・研究的側面では、外部資金において大型研究費が取れるようになると、大学としての自律性が高まるのではないかと考える。 ・全体的には、大学として一致団結しての取組みが素晴らしい。

《参考》 評定実績			H29 (仮)
H27	H28	H29	